

# 千葉県英語教育改善プラン

## 実施内容

**1 英語教育の状況を踏まえた目標****目標1 英語教員の資格取得状況について**

## (1) 目標指標

CEFR B2（英検準1級程度）以上の英語力を有する教員の割合を2025年までに、中学校では75%以上、高等学校では100%を目指す。

## (2) 現状

- ・中・高等学校ともに全国平均を下回っている。特に高等学校は低い状況が続いている。
- ・資格受験の機会がなかったことが一番の要因と考える。

## (3) 目標達成のための具体的手立て

- ①中・高等学校英語科教員を対象とした英語力強化研修を実施するとともに、研修受講者に外部試験受験料の補助を行う。
- ②英語教育研究部会と連携し、各研修会等において、研修参加者に直接、英語力向上の必要性を周知するとともに資格取得を促す。（特別価格での外部試験受験制度の周知）
- ③校長会議や教頭会議を通して説明し理解を求め、目標申告の項目に資格取得等について記載することを推奨する

中・教員	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	33%	40%	45%	50%	50%	50%	50%	55%	60%
現状	31.3%	30.3%	31.5%	31.7%	33.0%	32.3%	/	35.9%	

高・教員	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	45%	55%	65%	75%	75%	75%	75%	80%	85%
現状	38.1%	39.2%	46.1%	47.5%	51.9%	57.5%	/	64.1%	

**目標2 生徒の資格取得状況について**

## (1) 目標指標

求められる英語力を有する生徒の割合を2025年までに60%以上にする。

【中学校】CEFR A1（英検3級）相当 60%

【高等学校】CEFR A2（英検準2級）相当 60%

## (2) 現状

- ・中学校は、平成27年度、30年度、令和元年度に50%を達成しており、継続して50%を超えることが課題である。
- ・高等学校は、年度により割合の増減があるため、目標値に向けて上昇させ続けることが課題である。
- ・地域別に見ると、15%程度の差がある。教員の資格取得率から見る専門性に大きな差は無いが、教員の英語発話量や生徒の言語活動時間には10%程度差がある。授業改善が課題である。

## (3) 目標達成のための具体的手立て

- ①「英語教育実施状況調査」「全国学力学習状況調査」等を学校ごとに分析し、授業改善につなげる。
- ②端末を用いて、ICTを効果的に活用し、主体的な学習意欲の向上を図る。
- ③県教育委員会と市町村教育委員会が、課題を共有し、連携する。  
また、市町村教育委員会の横の連携を深め、指導主事による管轄学校への指導力向上や市町村独自で作成している資料、教材、施策等の情報共有を図る。
- ③授業公開を行う。オンラインやオンデマンドを活用することで、感染症対策につながるとともに、他地域の授業実態が共有され、県全体の授業が改善される。

中・生徒	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	40%	43%	46%	50%	50%	55%	55%	56%	57%
現状	40.0%	52.1%	45.9%	48.9%	52.2%	53.4%	/	52.0%	

高・生徒	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	34%	40%	45%	50%	50%	50%	50%	50%	55%
現状	27.2%	45.5%	41.0%	43.9%	39.8%	44.3%	/	42.0%	

### 目標3 学習到達目標の整備状況について

(1) 目標指標

2019年度に中・高等学校ともに設定率が100%に達したので、2022年までに公表率、達成状況の把握率を100%にする。

(2) 現状

- ・中・高等学校ともに設定率が100%となったが、公表率、達成状況の把握率が低い。
- ・CAN-DOリストが十分に活用できていない。

(3) 目標達成のための具体的手立て

- ①指導と評価の一体化が図れるよう研修を行い、CAN-DOリストを活用した指導や評価方法の工夫などについて協議する。
- ②先進的な取組事例を各研修会や学校訪問等で紹介し、授業改善や評価の工夫改善につなげる。

中学校	H29		H30		R1		R2		R3		R4	
	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状
設定	100%	99.7%	100%	99.7%	100%	100%	100%	/	100%	95.5%	100%	
公表	50%	12.0%	50%	12.3%	50%	17.8%	70%	/	100%	26.9%	100%	
達成状況把握	70%	26.2%	70%	26.9%	70%	26.5%	70%	/	100%	38.1%	100%	

高校	H29		H30		R1		R2		R3		R4	
	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状
設定	100%	82.6%	100%	89.6%	100%	100%	100%	/	100%	62.3%	100%	
公表	80%	20.3%	100%	24.0%	100%	35.9%	100%	/	100%	25.7%	100%	
達成状況把握	90%	55.8%	100%	46.4%	100%	53.3%	100%	/	100%	30.3%	100%	

### 目標4 生徒の英語による言語活動時間の割合について

(1) 目標指標

授業における生徒の英語による言語活動の割合が50%以上となる教員の割合を、2022年までに100%にする。

(2) 現状

- ・中学校、高等学校ともに年度ごとに割合は増えているが、教員の説明等の一斉指導の占める割合がまだ多い状況である。(特に高等学校)

(3) 目標達成のための具体的手立て

- ①教師の指導力向上研修や小中連携推進協議会等を通じて、生徒の言語活動を中心とした実践例等を扱い、授業改善の更なる推進を図る。
- ②言語活動を中心とした指導案例や授業動画等を県ホームページで紹介する。

中・生徒	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	55%	60%	65%	70%	75%	80%	90%	100%	100%
現状	58.9%	68%	65.2%	70.4%	72.3%	74%	/	63.5%	

高・生徒	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	35%	40%	45%	50%	55%	70%	80%	90%	100%
現状	36.1%	38.2%	39.2%	43.9%	45.8%	53.3%	/	46.0%	

**目標5 パフォーマンステストの実施状況について**

- (1) 目標指標  
各学校（学科）の実態に応じて、パフォーマンステストの回数を設定し、着実に実施する。  
（中学校4回、高等学校3回以上）
- (2) 現状
  - ・中・高等学校ともに定期的実施されているが、高等学校の回数が少ない。
  - ・CAN-DOリストと関連付けた評価にすることが課題である。
- (3) 目標達成のための具体的手立て
  - ①県独自で作成したパフォーマンステストを活用できるよう周知する（回数が増える）
  - ②英語教育拠点校（高校14校）における、パフォーマンス評価の研究成果を授業公開、研究協議会を実施することで県内中・高等学校に普及する。
  - ③各研修会等において、各学校での取組事例等を紹介する場を設定し、好事例を普及する。

**スピーキングテストの実施状況**

中学校	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	3回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回
現状	2.6回	2.5回	2.5回	2.8回	3.1回	/	3.5回	

高校	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	2回	3回	3回	3回	3回	4回	4回	4回
現状	0.3回	1.1回	0.9回	1.2回	1.3回	/	1.5回	

(コミュニケーション英語I)

**ライティングテストの実施状況**

中学校	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	3回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	4回
現状	1.9回	1.7回	1.5回	2.2回	1.9回	/	2.1回	回

高校	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標	1回	2回	2回	2回	2回	3回	3回	3回
現状	0.2回	0.9回	0.8回	0.9回	0.8回	/	0.8回	回

(コミュニケーション英語I)

**目標6 英語担当教員の英語使用状況について**

- (1) 目標指標  
授業における半分以上の発話を英語で行っている教員の割合を、2022年までに100%にする。
- (2) 現状
  - ・学年があがるにつれて、英語での発話量が減り、日本語での説明が多くなっている。
- (3) 目標達成のための具体的手立て
  - ①英語力強化を含めた研修を実施し、求められる英語力を有する教員の割合をあげる。
  - ②生徒のコミュニケーション能力の育成を目的とした指導力向上研修を実施し、授業改善を図る。
  - ③模範となる授業の動画等を公開することで、授業改善を図り、英語発話量を増加させる。

中・教員	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
目標	50%	80%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
現状	60%	64.8%	65.9%	71%	72.8%	/	66.9%		

高・教員	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
目標	50%	80%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
現状	42.9%	38.2%	40.9%	48.3%	48.2%	/	40.3%		

**目標7 小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合について**

(1) 目標指標

小学校教員の新規採用者の内、一定の英語力を有する者の割合を、2025年までに50%以上にする。

(2) 現状

・令和3年度に新規採用された教員の内、以下①②のいずれかを有する者 9.2%

①中学校または高等学校英語の免許状を有する者

②CEFR B2相当以上の英語力を有する者

(参考)

CEFR B2相当以上の外部検定資格取得者 : 0.8%

CEFR B1相当以上 " : 9.2%

(3) 目標達成のための具体的手立て

①教員採用候補者選考の「小学校：英語教育推進」枠の拡充

(参考：平成31年度実施要項より)

○中・高いずれかの英語の免許状を取得または取得見込みの者

○CEFR B2相当の英語力を有する者（各種検定合格者など）

②「大学推薦特別選考」に「小学校英語推進」（CEFR B2相当の英語力を有する者）の枠を新設する。

③県内及び近隣の大学へ、養成段階において、CEFR B2相当の資格取得を目指すよう要請する。

採用年	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
CEFR B2取得割合	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標	現状
	10%	1%	15%	0.8%	20%		30%		40%		50%	

**2 1の目標を達成するための取組（施策の全体像と具体的な計画）**

県の課題としては、生徒の言語活動時間の増加、教員の英語発話量の増加、教員の資格取得（専門性）がある。この課題を解決することで、生徒の英語力向上につながると考える。そのためには、授業は、教員が英語で行うことを基本とし、生徒が言語活動を通して英語を学べるよう授業改善を進める必要がある。さらに、教員の専門性を高めることで、授業の質を高めたい。

また、児童生徒の学習意欲向上を促すことで、自ら学んでいく児童生徒の育成に努める必要がある。

そこで、千葉県では、3つの柱「児童生徒の英語力・学習意欲の向上」「教員の英語力・専門性の強化」「授業の質の向上（授業改善）」を中心に、これらの課題解決に向けて施策を実行する。

また、教員の専門性向上及び業務の両立を把握するため、4技能向上English Workshopに参加する教員120名に対して、事前事後アンケートや学習アプリ活用状況調査等を行う。さらに、働き方改革の視点や学び続ける教員像についても明らかにする。

(1) 施策の全体像

# 令和4年度外国語教育推進に関する事業

千葉県の現状は、生徒の「読む」「聞く」力は上位だが、「話す」「書く」力が全国平均より低く、授業中の生徒の言語活動時間が全国平均より少ない。

この課題を解決するため、R3年2月に策定した外国語教育推進計画（5か年計画）に基づき、外国語を使ってコミュニケーションすることを楽しみ、**自己の考えなどを主体的に発信する力**のある児童生徒の育成を目指していく。



## 目標達成に向けた施策

効果的活用	<p>英語教育拠点校のALTを地域の小中学校に派遣するなど地域の外国語教育の充実を図る。</p> <p>対象：県立18校 ※ALTの授業が2週間に1回未満の学校 内容：アプリを入れることによって、生徒の英語力の向上を図る。 英語に自信がない生徒が多い学校であるため、アプリによって勉強を進め、ALTとの会話を充実させることができる。 また、4技能を磨くことができるアプリであるため、生徒の英語力向上に活用する。</p>	<p>言語や文化を学ぶ コミュニケーション</p> <p><b>ALT派遣事業</b> 英語で情報を理解し、自分の考えを発信する機会を日常的に確保。</p> <p><b>英語4技能向上アプリ導入</b> 生徒の英語力向上のため、英語アプリを導入するとともに、授業改善を行う。</p>
	<p>言語活動の充実</p> <p><b>パフォーマンステストに係る独自問題作成WG(R3～)</b> 「聞く」「読む」「話す(やりとり)」「話す(発表)」「書く」力を評価する問題作成。</p>	
学校間の連携を 生かした授業改善	<p>異校種連携</p> <p><b>小中高連携モデル事業(R3、4)</b> 小中高が協力して授業改善に関する研究を行う。授業動画公開予定。</p> <p><b>小中連携推進協議会(R3～)</b> 教員が、情報共有・授業参観・カリキュラム接続を段階的に行う。</p>	
	<p>教員の指導力向上等</p> <p><b>小学校外国語スキルアップ研修</b> 専門的な外国語教育の指導方法等</p> <p><b>英語絵本を活用した言語活動実践研修</b> 英語絵本を用いた言語活動の実践等</p> <p>対象：小学校50校(事務所に枠を設定) 場所：対象小学校(オンライン対応可) 日程：小学校と大学で調整 内容：英語絵本を活用することで、「読む・書く」の指導等、言語活動の充実を図る。</p> <p><b>中高指導評価研究協議会</b> 外部講師を招き、中・高等学校における英語の指導方法及び評価の改善を行う。</p> <p>対象：中・高等学校 人数：各60名(事務所に枠を設定) 場所：神田外語大学等 日程：話す(2日)読む・聞く・書く(2日) ※夏季休業中 内容：教員の英語力向上、授業における教員の英語発話量向上につながる言語活動。 ※教員にアプリ導入(英語力向上)</p> <p><b>外国語教育におけるICTの効果的な活用</b> 小・中・高等学校における外国語教育のICT活用方法</p> <p>対象：中・高等学校の教員 人数：各30人程度(事務所に枠を設定) 場所：オンライン(神田外語大学or千葉大学) 日程：全6回 ※1回は1コマ(1時間30分) 内容：教員が英語で発話する環境を確保し、実際に言語活動を体験しながら、指導方法を学ぶ。授業における教員の英語発話量の増加につながる。</p> <p><b>4技能向上English Workshop</b> 英語を用いた授業方法及び英語力向上 ※R3は「中・高等学校英語科教員英語力強化研修」※研修内容を拡充</p> <p><b>生徒の発信力を高めるオンライン英語研修</b> 教員の英語発話量の増加及び生徒の言語活動の増加を目的とした指導方法等</p> <p><b>外国語指導助手・外国語担当教員指導力向上研修</b> 模範授業等を用いた指導力向上</p> <p><b>Let's Try! 小学校外国語活動研修</b> 外国語教育の指導方法等</p>	

**(2) 小学校**

## ①小学校外国語スキルアップ研修

現職の小学校教員が、教員の英語発話による児童の言語活動の充実等、専門性を生かした外国語授業の指導法に対応するためのプログラムを実施する。

対 象：・公立小学校及び義務教育諸学校の外国語に中心的に関わる教諭  
・専科教員及び特別免許状所持者

※各教育事務所からの推薦 計100名

研 修 日：夏季休業中の1日

会 場：神田外語大学等

講 師：神田外語大学教授及び講師2名

## ②Let's Try! 小学校外国語活動研修

Let's Try!の活用方法と授業で実際に指導できるようになるための指導方法を学ぶ。

対 象：中学年担当の公立小学校及び義務教育学校・特別支援学校教諭 40名

研 修 日：令和4年8月の2日間

会 場：総合教育センター

講 師：英語教育推進リーダー 2名

## ③英語絵本を活用した言語活動実践研修

小学校で英語絵本を用いた言語活動の実践(読み聞かせ)を大学と連携して行う。近隣小学校も含め指導方法を周知・普及させる。小学校教員の英語による読み聞かせに関する指導力向上等を図る。

対 象：小学校50校

※読み聞かせは、オンラインの可能性ある。

**(3) 小・中学校**

## ①小中連携推進協議会

小中連携を推進するために県教委主導で、小・中学校の連携を図る。

ALTやICTの効果的な活用等の指導、評価法の理解、カリキュラムの連携等について進める。※オンライン授業参観等の検討、事前研修動画視聴等、開催方法を工夫する

対 象：小中連携研修を行っていない学校等から1名

(市町村単位の研修を実施している学校は除く)

研 修 日：令和4年6月～12月の半日(各教育事務所で設定)

会 場：各教育事務所で設定

講 師：各教育事務所指導主事

**(4) 中・高等学校**

## ①4技能向上 English Workshop

令和3年度は「中・高等学校英語科教員英語力強化集中研修」として実施した。

教師の英語力・指導力向上を図り、教員の英語発話による言語活動中心の授業となるようプログラムを実施する。

また、業務と専門性向上の両立について実態を明らかにする。

対 象：中・高等学校 英語科教諭 120名

※CEFR B2レベルの資格を有していない教員

研 修 日：夏季休業中の4日間(「話す」連続2日間、「読む・聞く・書く」2日間)

※その他、アプリを活用した英語力向上の実践

※第2回(10月)英語検定試験受験←受験料全額補助

会 場：神田外語大学等  
講 師：神田外語大学教授等

②生徒の発信力を高めるオンライン英語研修

生徒の英語力向上につながる効果的な言語活動の指導方法及び教員の英語発話量増加を図る。(研修と授業実践を繰り返す)

- ・基本的に ALL English による研修
- ・研修を通して学んだ言語活動の実践とリフレクション
- ・中・高の情報交換と連携強化

対 象：中・高等学校教員 各30名 ※地域で核となつてほしい教員

研 修 日：全6回 ※1回は1時間30分程度

(6月、8月、10月、11月、2月)

研修方法：オンライン

講 師：千葉大学教授等

③「中高指導評価協議会」の実施

英語教育拠点校(県立高等学校14校)において、近隣の中高教員等を対象に授業公開を実施するとともに、外部講師を招き英語の指導方法及び評価の改善について助言を受ける。

対 象：各学校1名上の中高等学校外国語科教員

研 修 日：令和4年11月頃(各拠点校で決定する)

会 場：オンラインもしくは拠点校で参集型等

内 容：拠点校の授業公開、研究の報告及び、外部講師による指導評価等を踏まえた講演

講 師：大学教授等

(5) 全校種

①外国語指導助手・外国語担当教員指導力等向上研修

ALTの効果的な活用及びALTの指導力向上を図り、授業改善を図る。

対 象：JETプログラム及び姉妹州プログラムのALTを活用している学校

小・中・高英語担当教員 約70名 ALT 約70名

研 修 日：11月の2日間

会 場：総合教育センター

内 容：指導力向上研修(TTの効果的な指導法等)

※感染症対策として、「集合研修(1日)」、「事前オンライン動画視聴」を組み合わせる場合もある。

②外国語教育小・中・高連携モデル事業

令和3年度から各教育事務所に、小・中・高連携モデル校を指定し、小・中・高等学校の系統性のある指導方法及び評価方法等について研究している。その成果(授業動画、報告書等)を県内全域に普及する。(R4年度終了)

研究指定校：R3年度から継続

研究内容：児童生徒の英語での発信力を高める授業改善

動画・公開：2年間で、全学校動画作成、全校動画作成する。

③パフォーマンステストに係る独自問題作成ワーキンググループ

各学校において、児童生徒の4技能が適切に評価されるよう、パフォーマンステストの事例を県で作成し共有する。R3年度作成問題の検証も併せて行う。

対象学年：小学生、中学生、高校生

作成時期：5月～2月

作成者：英語教育拠点校14校のうち、(4)の研究指定校に該当しない9校の9名(委員) 各教育事務所管内小中学校から各1名(小学校5名、中学校5名) 学習指導課指導主事、総セ研究指導主事、教育事務所指導主事

④外国語教育におけるICTの効果的な活用

1人1台端末等の効果的な活用等、教師の外国語教育におけるICT活用能力向上を図る。R3年度にデジタル教科書を導入した学校の好事例紹介を行う。

対象：小・中・高等学校教員 各80名

研修日：夏季休業中の半日研修 小：9/28(水) 中：9/21(水) 高：9/9(金)  
午前午後40人ずつの半日研修

会場：総合教育センター等

講師：千葉大学教授等

内容：効果的にICTを活用した外国語教育が行える指導力等の向上

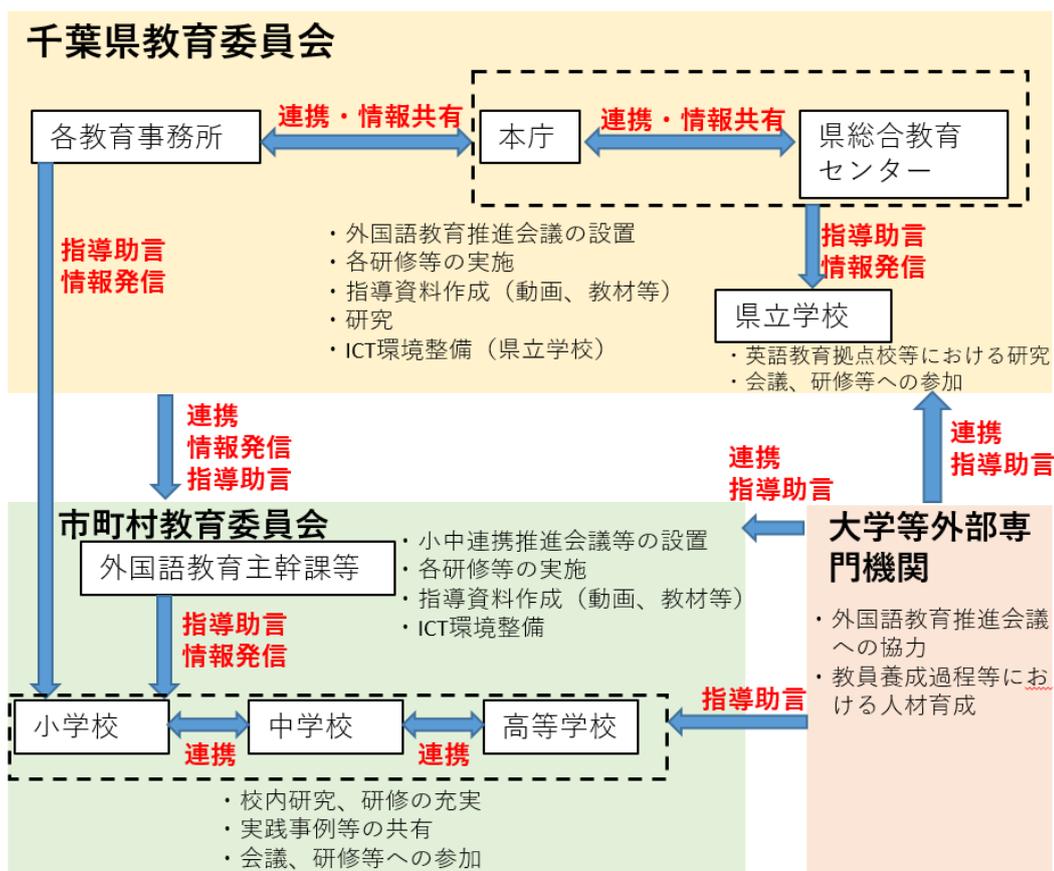
①授業における1人1台端末等の活用方法(家庭学習、授業準備等含む)

②好事例の紹介及び情報交換

### 3 2を実施する体制の概要

千葉県教育委員会では、千葉県総合教育センターとの連携を密にし、教育振興基本計画と千葉県教職員研修体系に基づいた、教員養成に向けた研修体制を構築している。令和2年度に策定された、「第3期千葉県教育振興基本計画」の基本理念の1つである「『世界とつながる人材』の育成」を受け、外国語教育の更なる推進を図るため、「千葉県外国語教育推進計画（5か年計画）」を策定した。この計画に基づき、千葉県の子供たちが、外国語を使ってコミュニケーションすることを楽しみ、自己の考えなどを主体的に発信する力を伸ばしていくことを目指す。

県全体の英語力向上に係る研修体系の構築に向け、「英語教育推進リーダー」を様々な研修の講師や計画・立案の協力者として効果的に活用するなど、県独自の取組も加えながら外国語教育を推進する。現在、英語教育拠点校として高等学校14校を指定し、近隣の小中学校との連携を意識した研究協議会等を実施しているが、さらに各地域における持続可能な研修体系を構築していく。



#### 【大学・民間機関等との連携】

○教育委員会が現場と大学や民間機関等をつなぐ役割を担い、域内の状況やニーズ、学習指導要領の趣旨等について共有し効果的な研修を開発・実施

○大学等や外部専門機関と連携し、専門性を生かした小・中・高校の教員向け研修プログラムの開発・充実

